

予報期間 10月4日から10月10日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 台風第27号については最新の台風予報を参照。
- 6日は、低気圧がオホーツク海へ進み、前線が北日本付近を通過する。
- 7日から9日にかけて、高気圧が黄海から日本の東に移動し、日本の南を気圧の谷が西に進む。
- 10日は、高気圧が日本のはるか東へ移動し、日本付近は気圧の谷となる。

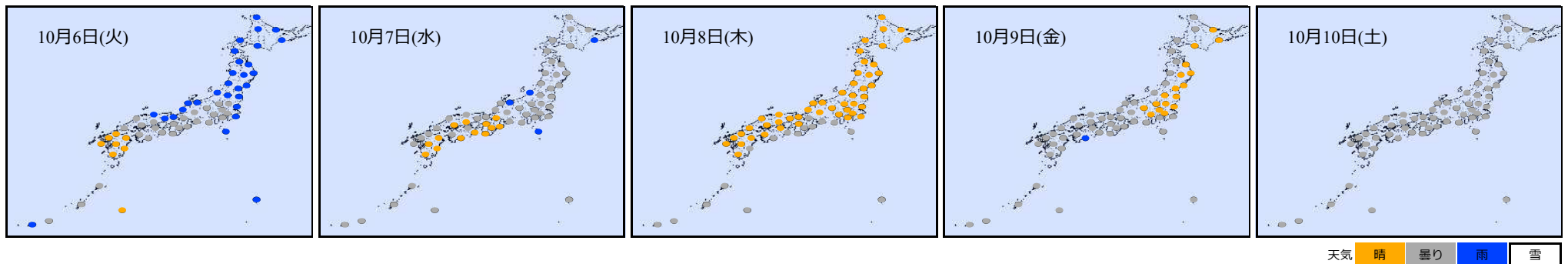
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 6日頃にかけて、小笠原諸島では台風第27号の影響でうねりを伴って波が高くなり、大しけとなる所があり、台風の進路等によっては大荒れや警報級の大雨となるおそれがある。
- 6日から7日頃は、北日本と東日本では台風第27号の影響でうねりを伴って波が高くなり、台風の進路等によっては大しけや警報級の高潮となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

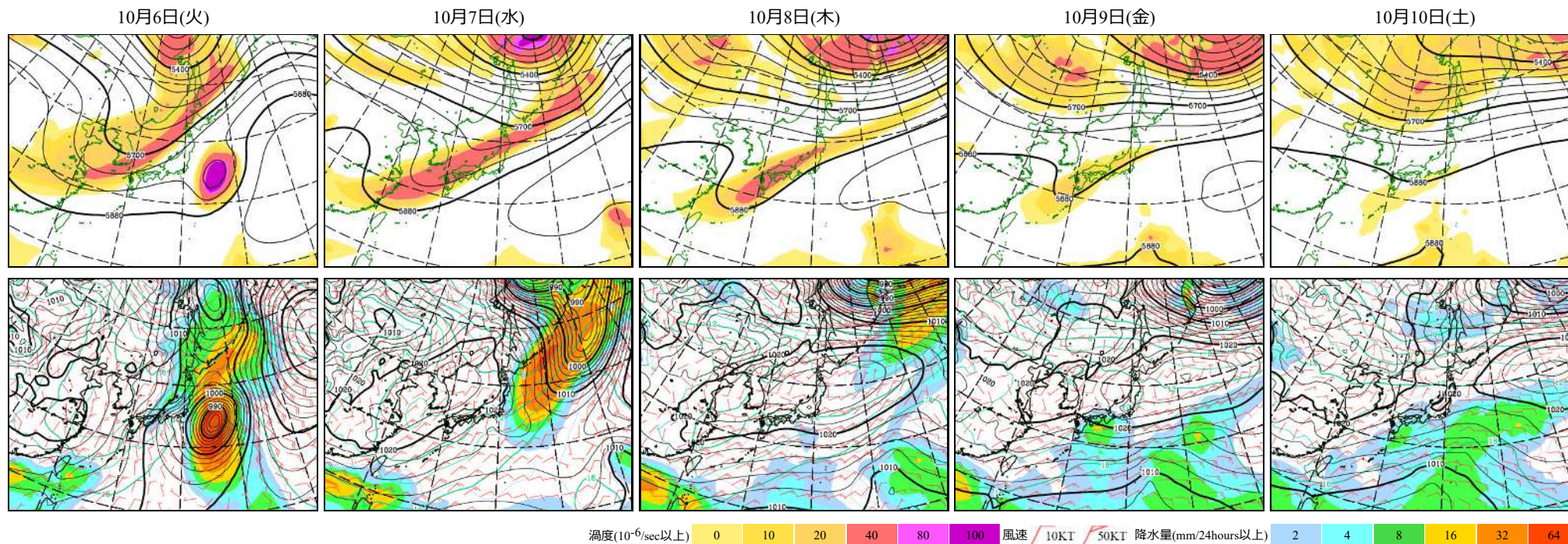
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

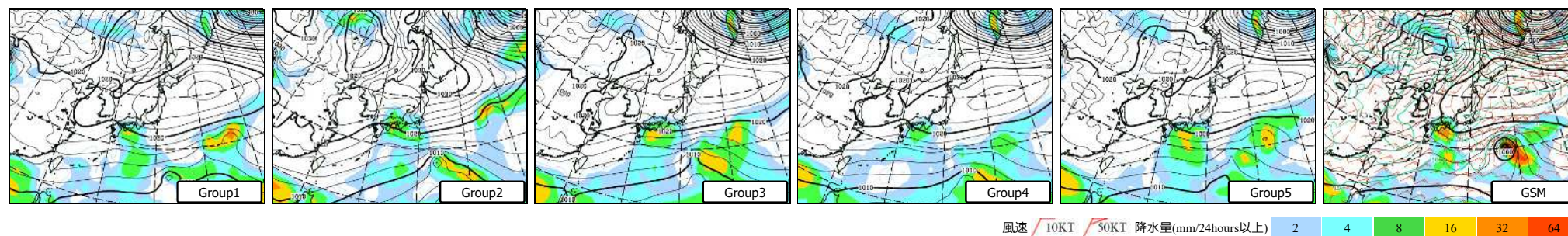


- 北日本と東日本は、曇りや晴れの日が多いが、6日と7日は雨の降る所がある。
- 西日本は、曇りや晴れの日が多いが、6日と9日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、6日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆10月9日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、8日にかけて北日本付近に移動する高気圧の進みが早くなった。期間の終わり頃は、西日本を中心に高気圧後面の湿った空気の流れ込みが強まった。このため、9日は降水確率ガイダンスの値が、西日本太平洋側で大きくなった。
- モデル間の差は、比較的小さいが期間の終わり頃は日本付近に進む上空のトラフにばらつきが見られる。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の終わり頃は特定高度線のばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。